

平成 26 年 度 に 実 施 し た  
大学機関別選択評価に関する検証結果報告書

平成 28 年 3 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構



## はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

機構では、選択評価において、毎年度、評価の終了後、評価対象校及び機構側の評価担当者（以下「評価担当者」という。）へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行うことにより、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握し、次年度以降に実施する評価に反映させている。

平成 26 年度実施の選択評価においても、アンケート調査を実施して検証を行うこととし、より透明性の高い評価とするため、平成 26 年度実施の選択評価（大学）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。



# 目 次

はじめに

I	機構が実施した大学機関別選択評価の概要	1
II	平成 26 年度実施の選択評価に関する検証	
1.	検証の実施方法	5
2.	項目別の検証	
(1)	選択評価を受けた理由について	7
(2)	選択評価事項及び観点について	8
(3)	説明会・研修会について	9
(4)	自己評価書について	10
(5)	書面調査・訪問調査について	11
(6)	評価結果（評価報告書）について	13
(7)	評価の効果・影響について	14
(8)	評価の作業量等について	15
(9)	設けることが望ましい選択評価事項について	16
(10)	評価についての全般的な意見・感想について	17
3.	対象校の取組及びアンケートで意見	
(1)	選択評価結果を受けた対象校の改善取組例	18
(2)	アンケートで寄せられた意見	18

参考資料

1	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	21
2	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	25
3	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果	

	(自由記述)【対象校】	28
4	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 (自由記述)【評価担当者】	32
5	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 (大学用)	35
6	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 (大学用)	50

## I 機構が実施した大学機関別選択評価の概要

平成 26 年度に実施した選択評価の検証を示すに当たって、まず機構が実施した大学の選択評価の概要について触れておく。

機構の実施する認証評価は、大学の正規課程における教育活動を中心として大学の教育研究活動等の総合的な状況を評価するものであるが、大学にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに大学は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われている。

機構は、大学評価基準とは異なる側面から大学の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択評価事項 A）、「地域貢献活動の状況」（選択評価事項 B）及び「教育の国際化の状況」（選択評価事項 C）を設定し、大学の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を行っている。

選択評価事項は、まず、平成 17 年度に選択的評価基準として「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始し、評価体制が整備されるのを待って、翌平成 18 年度より「研究活動の状況」の評価を開始し、これら二つの事項を選択的評価事項として定めた。機構では、選択的評価事項に関する評価を発展させ、平成 23 年 3 月に大学機関別選択評価に改め、「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」の二つの事項を選択評価事項とし、平成 24 年度から評価を開始するとともに、平成 25 年度からは「教育の国際化の状況」を新たに追加し評価を実施している。

### 1. 目的

選択評価は、各大学の個性の伸長に資するよう、以下のことを目的として行っている。

- (1) 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (2) 大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

### 2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学（以下「対象校」という。）の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施した。

評価部会には、大学の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象校の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

### 3. 評価のプロセス

評価のプロセスの概要は、下記のとおりである。

#### (1) 大学における自己評価

大学は、機構が用意した『自己評価実施要項』に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成した。

#### (2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象校から提出された自己評価書（大学の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象校の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 選択評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる大学が有する目的の達成状況等について評価を実施した。  
なお、選択評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく、基本的な観点の分析状況を総合した上で、選択評価事項ごとに行った。
- ④ 選択評価事項ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。
- ⑤ 評価結果については、「目的の達成状況が非常に優れている」、「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」、「目的の達成状況が不十分である」の4段階で記述し、公表した。

### 4. スケジュール

(1) 平成25年5月から6月にかけて、国・公・私立大学の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。

(2) 平成25年8月から9月にかけて申請を受け付け、最終的に以下の大学の評価を実施することとなった。

#### ○ 国立大学（6大学）

福島大学（B）、愛知教育大学（B）、三重大学（B・C）、  
京都工芸繊維大学（B・C）、神戸大学（A）、九州工業大学（C）



(3) 平成 26 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(4) 平成 26 年 6 月末に、対象校から自己評価書の提出を受けた。

(5) 対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

26 年 7 月	書面調査の実施
8 月～9 月	運営小委員会の開催（各評価部会間の横断的な事項の調整） 評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～12 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査）
12 月	評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成 27 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(7) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 27 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

## 5. 評価結果

平成 26 年度に選択評価を実施した大学の評価結果は、次のとおりとなった。

- 選択評価事項 A
  - ・ 目的の達成状況が良好である：1 大学
- 選択評価事項 B
  - ・ 目的の達成状況が良好である：4 大学
- 選択評価事項 C
  - ・ 目的の達成状況が良好である：1 大学
  - ・ 目的の達成状況がおおむね良好である：2 大学
  - \* 「国際的な教育環境の構築」について一般的な水準を上回っている：1 大学
  - \* 「外国人学生の受入」について一般的な水準を上回っている：1 大学

機構はこの評価結果を平成 27 年 3 月 26 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するととも

に、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 選択評価事項は機構ウェブサイトを参照のこと。

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/daigaku/index.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/index.html)

## Ⅱ 平成 26 年度実施の選択評価に関する検証

### 1. 検証の実施方法

#### (1) アンケート調査の実施

平成 26 年度実施の選択評価の対象校及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

[対象校]

1. 選択評価事項及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
  - (1) 自己評価について
  - (2) 訪問調査等について
  - (3) 意見の申立てについて
3. 評価の作業量、スケジュール等について
4. 説明会・研修会等について
5. 評価結果（評価報告書）について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
  - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
  - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について
8. その他

[評価担当者]

1. 選択評価事項及び観点について
2. 評価の方法及び内容・結果について
  - (1) 自己評価書について
  - (2) 書面調査について
  - (3) 訪問調査について
  - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
5. 評価全般について

#### (2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査内容から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点

等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 選択評価を受けた理由について
- (2) 選択評価事項及び観点について
- (3) 説明会・研修会について
- (4) 自己評価書について
- (5) 書面調査・訪問調査について
- (6) 評価結果（評価報告書）について
- (7) 評価の効果・影響について
- (8) 評価の作業量等について
- (9) 設けることが望ましい選択評価事項について
- (10) 評価についての全般的な意見・感想について

#### ※アンケート調査に係る補足事項

##### 1. アンケート用紙配付日程

	平成 26 年度
対象校	平成 27 年 3 月 27 日
評価担当者	平成 26 年 12 月 26 日

##### 2. アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	8 校中 8 校	100%
評価担当者	27 名中 14 名	52%

## 2. 項目別の検証

※選択評価 A については、受審校が 1 校のみであったため、匿名的・統計的な観点から今回は検証を行わず、次年度以降の検証において合わせて集計・分析を行うこととした。

### (1) 選択評価を受けた理由について

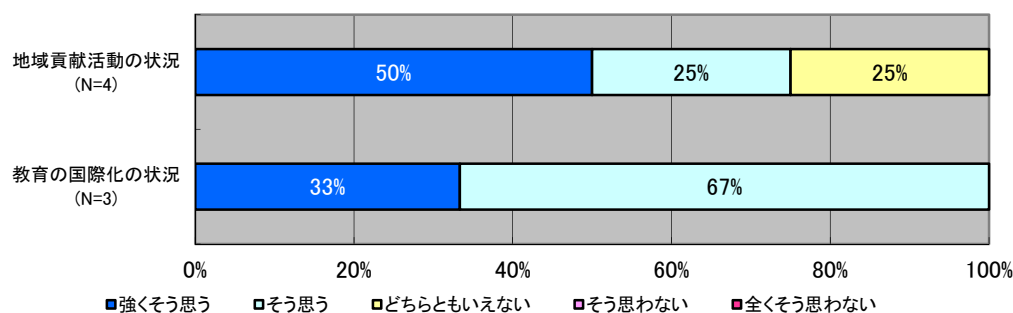
今回、対象校が選択評価を受けた理由について、選択評価事項にあたる取り組みについて第三者評価を通じて更なる改善活動の促進を行う目的として受けた大学や、重点的取組事項としていて、評価を通じて強みや課題を明らかにすることで更なる取り組みの充実や個性の伸長等につなげるという目的で受けた大学が見られた。

また、特に選択評価事項 C(教育の国際化)については、重点的に取り組んできたため、評価を通じ改善点を洗い出すことで PDCA サイクルを回すという目的の大学が見られた。

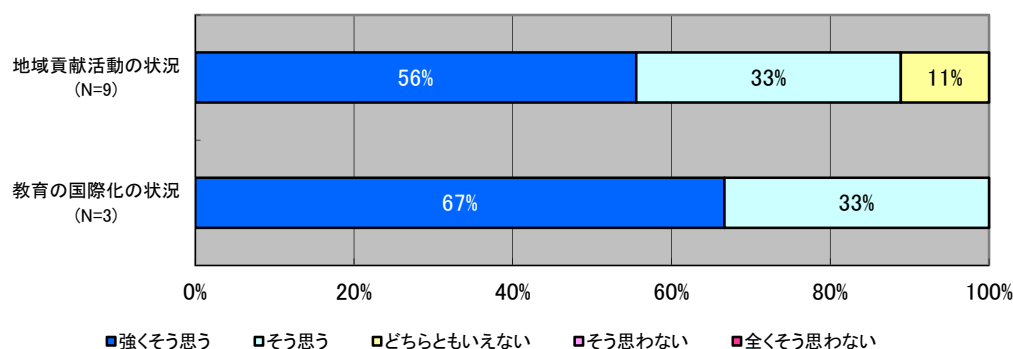
## (2) 選択評価事項及び観点について

設定された選択評価事項のテーマ「研究活動の状況」「地域貢献活動の状況」「教育の国際化」は適切か（機関 1-②、評 1-②※）について、対象校、評価担当者に質問した結果を図1(a)(b)に表す。

比較すると地域貢献活動は若干「どちらともいえない」という回答がみられるものの、全体的には肯定的であり、設定したテーマはおおむね適切であると考えられる。



(a) 【対象校】 選択的評価事項のテーマの適切性



(b) 【評価担当者】 選択的評価事項のテーマの適切性

図1 テーマの適切性

※「機関〇—〇」：参考資料「選択評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】」における設問番号に対応  
「評〇—〇」：参考資料「選択評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】」における設問  
回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

### (3) 説明会・研修会について

対象校における研修会・説明会は適切であったか（機関 4-①）、評価担当者に対する研修会は有効であったか（評 3-①）について質問した結果が図 2(a) (b)である。

評価担当者はおおむね有効であるという結果となったものの、対象校は必ずしも有効であるとは言えず、改善の余地がある。

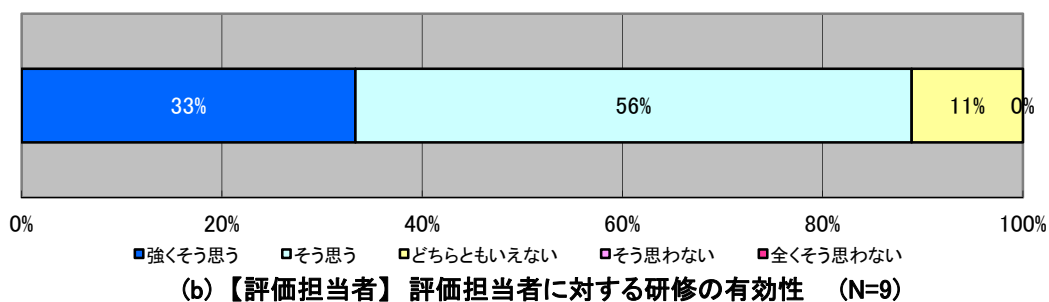
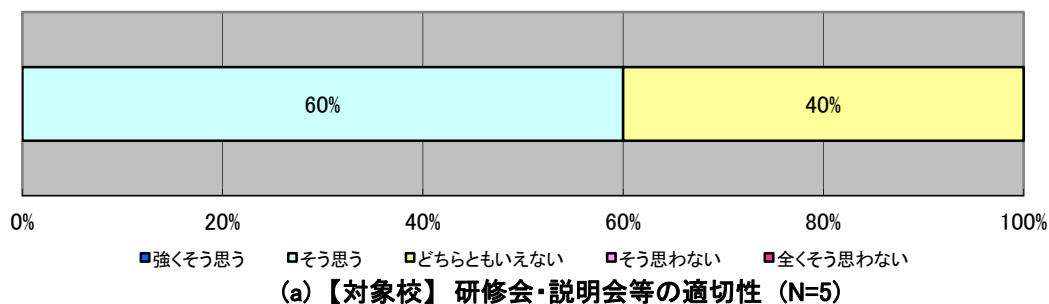


図 2 研修会・説明会の有効性

#### (4) 自己評価書について

「対象校の自己評価書は理解しやすかった」か（評 2-1-①）という質問の結果を選択評価事項別にまとめたものが図3である。

地域貢献活動については、肯定的な回答が寄せられているが、教育の国際化の状況については肯定的な評価は少ない。

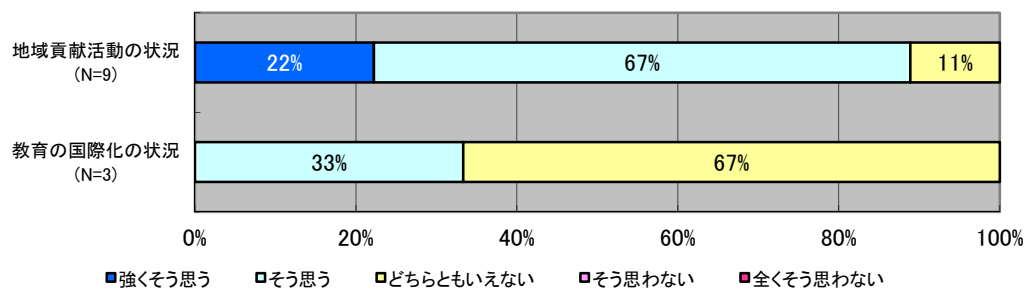


図3 【評価担当者】対象校の自己評価書の理解のしやすさ

また、「自己評価書には必要な根拠資料が適切に引用・添付されていた」か（評 2-1-②）について質問した結果を取りまとめたものが図4である。

これについても地域貢献活動については評価が高いが教育の国際化の状況については肯定的な評価が少なくなっている。今後とも、自己評価書の作成においては、説明会や個別対応等でできるだけ理解を深められるよう努める必要がある。

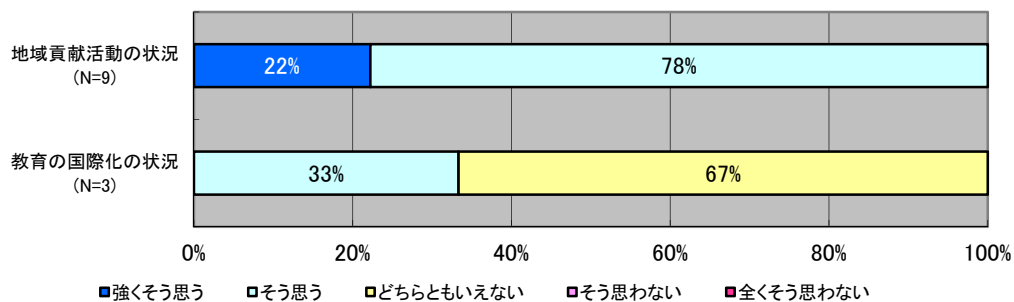


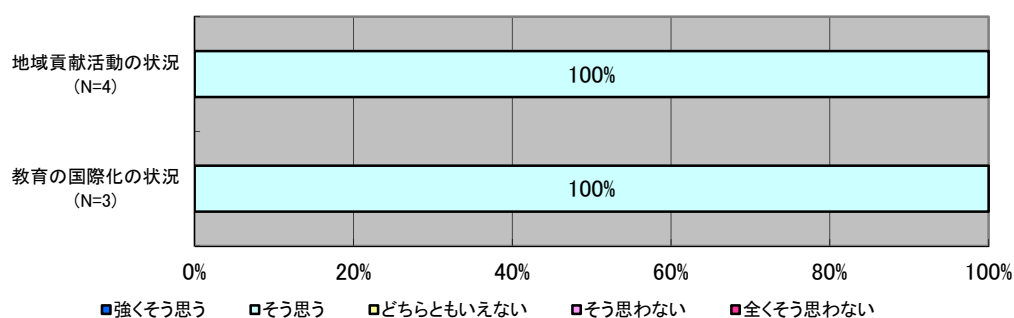
図4 【評価担当者】対象校の自己評価書の根拠資料の適切性



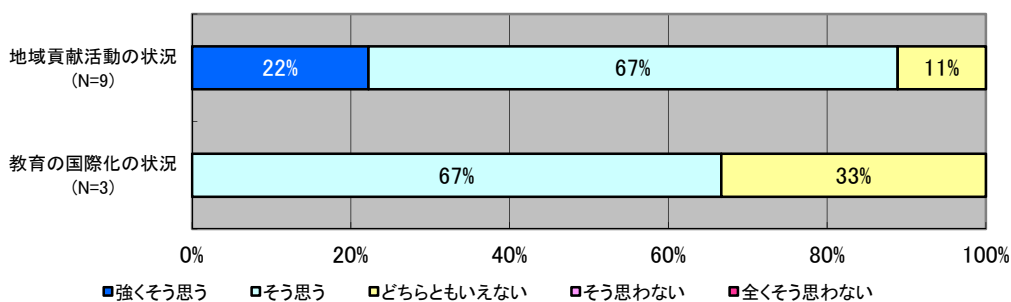
## (5) 書面調査・訪問調査について

書面調査による分析状況について、対象校に対し「内容が適切であったか」（機関 2-2-①）について、また、評価担当者に対し、「書面調査票等の様式は記入しやすかったか（評 2-2-①）について質問した結果が図 5(a) (b)である。

分析状況の適切性については、全ての回答で「そう思う」と肯定的な回答が寄せられた。様式の適切性については教育の国際化の状況については肯定的な回答が若干低めとなっているが、総じて肯定的であり、おおむね適切であると考ええる。



(a) 【対象校】「書面調査による分析状況」の適切性

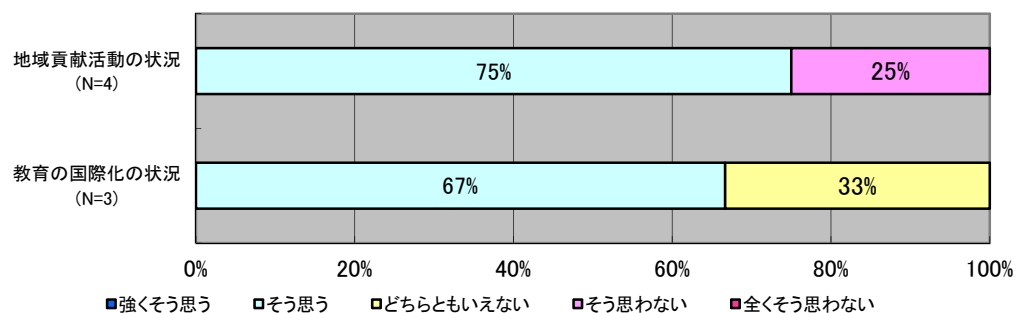


(b) 【評価担当者】書面調査等の様式の適切性

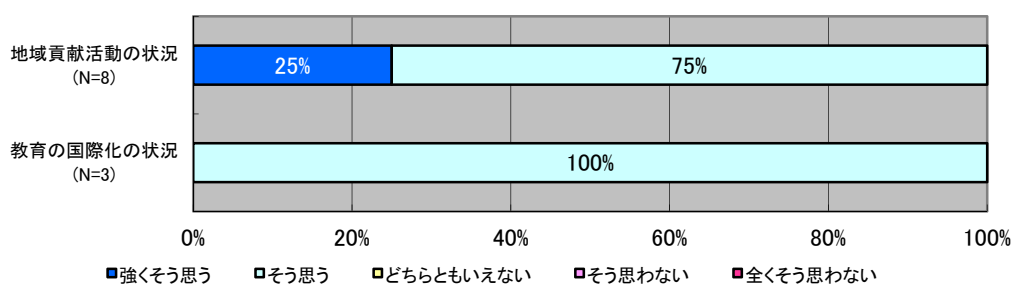
図 5 書面調査の適切性

「訪問調査時の確認事項」について、対象校に対し「適切であった」か（機関 2-2-②）について、評価担当者に対し「回答が適切であった」か（評 2-3-①）について質問した結果が図 6 (a) (b) である。

一部否定的な回答があるものの、総じて肯定的な回答であり、それぞれおおむね適切であると思われる。



(a) 【対象校】「訪問調査時の確認事項」の適切性



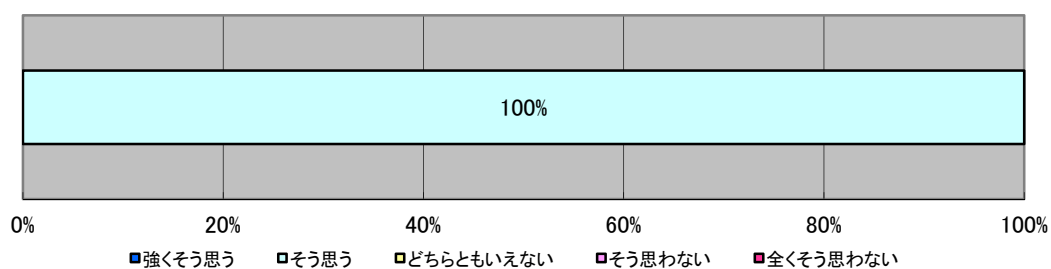
(b) 【評価担当者】「訪問調査時の確認事項」に対する回答の適切性

図 6 「訪問調査時の確認事項」の適切性

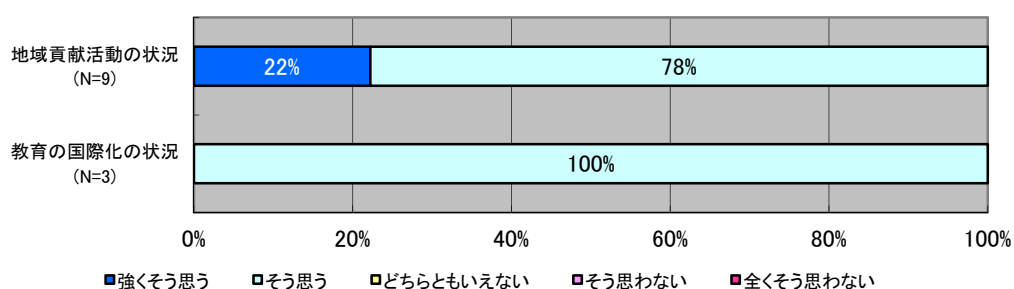
## (6) 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、対象校に対し、構成が適切であったか（機関 5-⑨）について、評価担当者に対し、調査内容は評価結果に十分反映されたか（評 2-4-①）について質問した結果を図 7(a) (b)に取りまとめた。

両結果ともに肯定的な回答となっており、評価結果報告書については適切であると思われる。



(a) 【対象校】 評価報告書の内容や構成の適切性 (N=5)



(b) 【評価担当者】 評価結果の妥当性(調査内容の反映)

図 7 評価結果（報告書）の適切性・妥当性

## (7) 評価の効果・影響について

対象校に対し、機構の評価を受けたことによる効果・影響について、教育研究活動の改善の促進に効果があったか（機関 6-2-②）について、また、社会からの理解と支持が得られたか（機関 6-2-③）について、質問した結果を図 8、図 9 に取りまとめた。

改善の促進については、70%前後とおおむね肯定的な評価を得られている。

しかし、社会からの理解と支持については、総合的に見ても改善の促進と比較して低いという状況である。社会からの理解と支持を得るといふ評価の目的について、対象校と機構双方において、達成できるよう努力を行う必要がある。

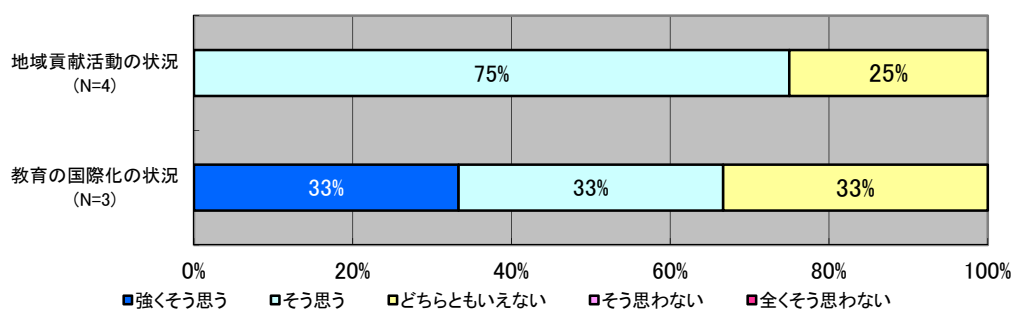


図8 【対象校】 機構の評価を受けたことによる効果・影響(改善の促進)

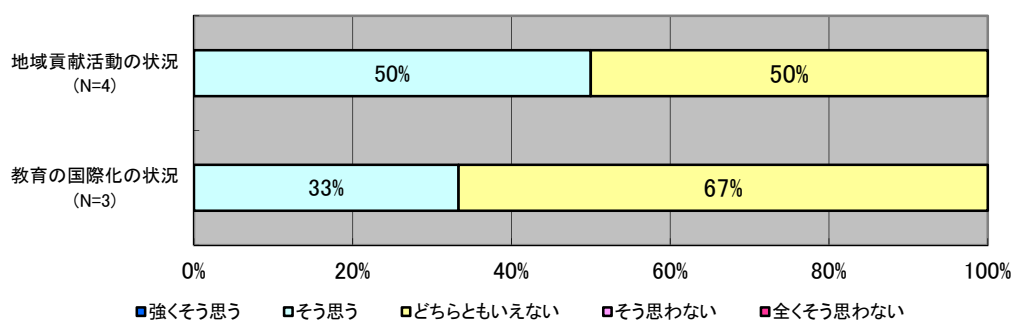
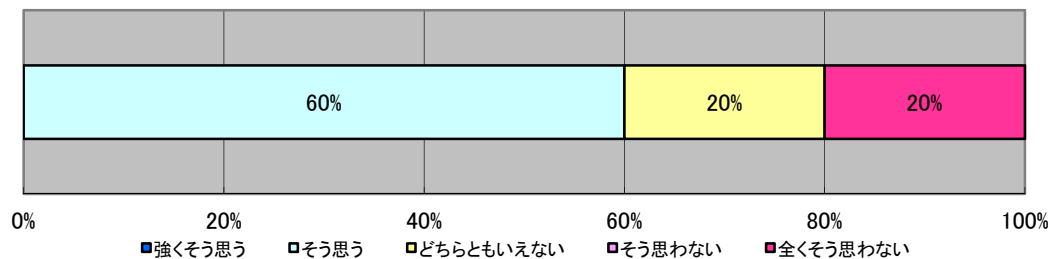


図9 【対象校】 機構の評価を受けたことによる効果・影響(社会からの理解と支持)

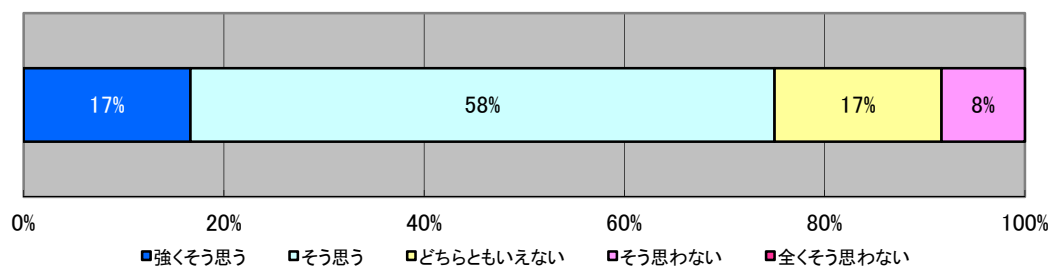
## (8) 評価の作業量等について

評価の作業量、スケジュールは適切であったか（機関 3-①）（評 4-①）について質問した結果が図 10(a) (b)である。

両結果とも 60%以上が肯定的な回答であるものの、一部否定的な回答もみられる。今後、スケジュールや作業量において改善を行う必要は大いにありとみられる。



(a) 【対象校】 評価の作業量、スケジュール等の適切性 (N=6)



(b) 【評価担当者】 評価の作業量、スケジュール等の適切性 (N=12)

図 10 評価の作業量・スケジュール等の適切性

## **(9) 設けることが望ましい選択評価事項について**

現在の選択評価事項のほかに、新たに設けることが望ましい評価事項があったかについて、評価担当者・対象校ともに特になしとの結果となった。

## **(10) 評価についての全般的な意見・感想について**

(1)～(9)に挙げたもののほか、評価全般について、評価担当者から主に次のような意見・感想があった。

### **・評価担当者からの意見・感想について**

選択評価に携わり、勉強になった、参考になった、得難い機会であった等の感想が寄せられている。また、対象校が特に求めてきた項目であるため、その期待に応えられるようにすることが大事であるとの意見もあった。

### 3. 対象校の取組及びアンケートで寄せられた意見

#### (1) 選択評価結果を受けた対象校の改善取組例（代表的なものを抽出）

- 国際的教育活動の実施に対して、事業評価アンケートを行うなど、事業の成果の把握に取り組む。

#### (2) アンケートで寄せられた意見（代表的なものを抽出）

##### 【意見】

##### （対象校）

- 説明会において、選択事項 C についての説明がほとんどない、教育の国際化の状況の評価であることについての説明が分かりづらい。

##### （評価担当者）

- 何を目的として選択評価を受審するのか対象校に尋ねることで、評価の仕方に違いが出てくるのではないか。



# 参 考 资 料

## 参考資料 目次

1	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	21
2	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	25
3	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【対象校】	28
4	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【評価担当者】	32
5	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【対象校】（大学用）	35
6	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【評価担当者】（大学用）	50

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の大学や個人等が明らかに特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

平成26年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】  
【大学】

機関-	① 今回受けた選択評価事項	A	1
		B	4
		C	3

以下、選択評価事項Aについては受審校が1校のため、次回以降との合同で結果を掲載する。

【2:あった 1:なかった】

機関-	③ 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった	2	1	計	平均	未回答
		0	5	5	1	0
		0%	100%	100%		

1. 選択評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関1-	① 選択評価を設けたことは適切であった	1	3	1	0	0	5	4	0	
		20%	60%	20%	0%	0%	100%			
機関1-	② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった	B	2	1	1	0	0	4	4.25	0
		C	1	2	0	0	0	3	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	B	1	3	0	0	0	4	4.25	0
		C	1	1	1	0	0	3	4	0
		33%	33%	33%	0%	0%	100%			
機関1-	④ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立てるために適切であった	B	0	4	0	0	0	4	4	0
		C	1	1	1	0	0	3	4	0
		33%	33%	33%	0%	0%	100%			
機関1-	⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立てるために適切であった	B	0	4	0	0	0	4	4	0
		C	0	2	1	0	0	3	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%			
機関1-	⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	B	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		C	0	2	1	0	0	3	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%			

【2:ある 1:ない】

機関1-	⑦ 自己評価しにくい選択評価事項又は観点があった	B	2	1	計	平均	未回答
			0	4	4	1	0
		0%	100%	100%			
		C	0	3	3	1	0
0%	100%		100%				
機関1-	⑧ 現行のものに加え、追加すべき観点があった	B	0	4	4	1	0
			0%	100%	100%		
		C	0	3	3	1	0
			0%	100%	100%		

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【2:迷った 1:迷っていない】

機関2-(1)-	① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	B	2	1	計	平均	未回答
			0	4	4	1	0
		0%	100%	100%			
		C	0	3	3	1	0
0%	100%		100%				

(2) 訪問調査等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	B	0	4	0	0	0	4	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
C		0	3	0	0	0	3	4	0	
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	B	0	3	0	1	0	4	3.5	0
			0%	75%	0%	25%	0%	100%		
C		0	2	1	0	0	3	3.67	0	
		0%	67%	33%	0%	0%	100%			

(3) 意見の申立てについて

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)-	① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった	0	4	0	0	1	5	3.4	0
		0%	80%	0%	0%	20%	100%		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-	① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった	0	3	1	0	1	5	3.2	0
		0%	60%	20%	0%	20%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 総じて、説明会・研修会等は適切であった	0	3	2	0	0	5	3.6	0
		0%	60%	40%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関5-	① 評価報告書の内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つものであった	B	0	3	0	1	0	4	3.5	0
			0%	75%	0%	25%	0%	100%		
機関5-	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	C	0	1	1	1	0	3	3	0
			0%	33%	33%	33%	0%	100%		
機関5-	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	B	0	4	0	0	0	4	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	C	1	2	0	0	0	3	4.33	0
			33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	B	0	2	2	0	0	4	3.5	0
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関5-	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	C	0	1	2	0	0	3	3.33	0
			0%	33%	67%	0%	0%	100%		
機関5-	⑦ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	B	0	3	0	0	0	3	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑧ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	C	0	1	2	0	0	3	3.33	0
			0%	33%	67%	0%	0%	100%		
機関5-	⑨ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	B	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5-	⑩ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	C	0	1	0	1	0	2	3	0
			0%	50%	0%	50%	0%	100%		
機関5-	⑪ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	B	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5-	⑫ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	C	0	1	1	1	0	3	3	0
			0%	33%	33%	33%	0%	100%		
機関5-	⑬ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	B	0	4	0	0	0	4	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑭ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	C	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関5-	⑮ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	B	0	4	0	0	0	4	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑯ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	C	1	1	1	0	0	3	4	0
			33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関5-	⑰ 評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった	B	0	5	0	0	0	5	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑱ 評価結果において、「国際的な教育環境の構築」「外国人学生の受入」「国内学生の海外派遣」の各項目について、一般的な水準から4段階で判断を示すという方法は適切であった	C	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関5-	⑲ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	B	0	2	2	0	0	4	3.5	0
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関6-(1)-	① 対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立った	B	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
		C	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の改善に役立った	B	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
		C	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関6-(2)-	① 対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つ	B	0	2	1	1	0	4	3.25	0
			0%	50%	25%	25%	0%	100%		
		C	0	1	1	1	0	3	3	0
			0%	33%	33%	33%	0%	100%		
機関6-(2)-	② 対象校の教育研究活動等の改善を促進に役立つ	B	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
		C	1	1	1	0	0	3	4	0
			33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	③ 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる	B	0	2	2	0	0	4	3.5	0
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
		C	0	1	2	0	0	3	3.33	0
			0%	33%	67%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

(1) 今回の評価(機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。)を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項(または実施済みの事項)について、

(省略)

(2) 対象校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。(複数回答可)

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他(具体的に)

1	2	3	4	5
0	6	0	0	0

平成26年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】  
【大学】

評1-	① 今回、評価を担当された選択評価事項について	A	2
		B	9
		C	3

※ 以下、選択評価Aの評価担当者の回答は抜いた集計結果。

【2:あった 1:なかった】

評1-		2	1	計	平均	未回答
評1-	② 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった	0	12	12	1	0
		0%	100%	100%		

1. 選択評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

評1-		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評1-	① 選択評価を設けたことは適切であった	6	6	0	0	0	12	4.5	0	
		50%	50%	0%	0%	0%	100%			
評1-	② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	B	5	3	1	0	0	9	4.44	0
		C	2	1	0	0	0	3	4.67	0
		56%	33%	11%	0%	0%	100%			
		67%	33%	0%	0%	0%	100%			
評1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	B	5	4	0	0	0	9	4.56	0
		C	2	0	1	0	0	3	4.33	0
		56%	44%	0%	0%	0%	100%			
		67%	0%	33%	0%	0%	100%			
評1-	④ 「国際的な教育環境の構築」「外国人学生の受入」「国内学生の海外派遣」の各項目について、一般的な水準から判断を示すという方法は適切であった	0	2	1	0	0	3	3.67	0	
		0%	67%	33%	0%	0%	100%			
評1-	⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立てるために適切であった	B	4	4	0	0	0	8	4.5	1
		C	0	2	1	0	0	3	3.67	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%			
		0%	67%	33%	0%	0%	100%			
評1-	⑥ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立てるために適切であった	B	2	7	0	0	0	9	4.22	0
		C	0	3	0	0	0	3	4	0
		22%	78%	0%	0%	0%	100%			
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			
評1-	⑦ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	B	2	7	0	0	0	9	4.22	0
		C	0	2	0	0	0	2	4	1
		22%	78%	0%	0%	0%	100%			
		0%	100%	0%	0%	0%	100%			

【2:ある 1:ない】

評1-		2	1	計	平均	未回答	
評1-	⑧ 評価しにくい評価事項又は観点があった	B	0	9	9	1	0
		C	1	2	3	1.33	0
		0%	100%	100%			
		33%	67%	100%			
評1-	⑨ 現行のものに加え、追加すべき観点があった	B	1	8	9	1.11	0
		C	0	2	2	1	1
		11%	89%	100%			
		0%	100%	100%			

## 2. 評価の方法及び内容・結果について

### (1) 自己評価書について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(1)-		B	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	2	6	1	0	0	9	4.11
			22%	67%	11%	0%	0%	100%		
		C	0	1	2	0	0	3	3.33	0
			0%	33%	67%	0%	0%	100%		
評2-(1)-	② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	B	2	7	0	0	0	9	4.22	0
			22%	78%	0%	0%	0%	100%		
		C	0	1	2	0	0	3	3.33	0
			0%	33%	67%	0%	0%	100%		

### (2) 書面調査について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(2)-		B	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	2	6	1	0	0	9	4.11
			22%	67%	11%	0%	0%	100%		
		C	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	B	0	1	2	4	2	9	2.22	0
			0%	11%	22%	44%	22%	100%		
		C	0	0	3	0	0	3	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		

### (3) 訪問調査について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(3)-		B	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	2	6	0	0	0	8	4.25
			25%	75%	0%	0%	0%	100%		
		C	0	3	0	0	0	3	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		

### (4) 評価結果について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(4)-		B	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	2	7	0	0	0	9	4.22
			22%	78%	0%	0%	0%	100%		
		C	0	3	0	0	0	3	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		

## 3. 研修について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評3-		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
		① 総じて、研修は適切であった	3	5	1	0	0	9	4.22
		33%	56%	11%	0%	0%	100%		



4. 評価の作業量、スケジュール等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-	① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった	2	7	2	1	0	12	3.83	0
		17%	58%	17%	8%	0%	100%		

5. 評価全般について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評5-	① 今回の評価によって対象校の個性の伸長と特色の明確化に役立つと思う	B	5	4	0	0	0	9	4.56	0
		C	1	1	1	0	0	3	4	0
			58%	44%	0%	0%	0%	100%		
評5-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善に役立つと思う	B	2	6	1	0	0	9	4.11	0
		C	0	2	0	0	0	2	4	1
			22%	67%	11%	0%	0%	100%		
評5-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	B	1	6	2	0	0	9	3.89	0
		C	0	1	2	0	0	3	3.33	0
			11%	67%	22%	0%	0%	100%		
評5-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	B	1	6	2	0	0	9	3.89	0
		C	0	2	0	0	0	2	4	1
			11%	67%	22%	0%	0%	100%		
評5-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	B	4	3	2	0	0	9	4.22	0
		C	0	1	0	0	0	1	4	2
			44%	33%	22%	0%	0%	100%		
評5-	⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった		7	5	0	0	0	12	4.58	0
			58%	42%	0%	0%	0%	100%		

## 選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】 （大学）

### ② 選択評価事項に係る評価を受けた理由について

- ・ 東日本大震災や原発事故の影響について、本学は地域密着の教育、研究、社会貢献事業を先がけて実施しており、それは平成 22 年度ならびに平成 23 年度業務実績評価でも、文部科学省から高い評価を得るほどの「強み」となっております。以上のことから、選択評価Bを受審することで、一定の評価を得ることにより、さらなる地域貢献活動の発展が期待できると考え、受審いたしました。
- ・ 自己評価のため。
- ・ 中期目標期間評価に備えるため。
- ・ 本学の地域貢献及び教育の国際化に関する取組みについて、第三者評価を通じた客観的な評価結果に基づき、更なる改善活動を推進するため。
- ・ 地域貢献活動や教育の国際化は、近年本学が重点的に取り組んできた事項であり、評価を通じて強みや課題を明らかにすることで、さらなる取組の充実や個性の伸長等につなげることができると判断したため。
- ・ 大学として教育の国際化に注力しようとしていた所でもあり、独自に検証及びフィードバックの機会を確保するため、教育の国際化に関する評価を受審し、第2期中期目標期間における取組の進捗状況把握や改善点の洗い出し、優れた取組の全学展開や情報の共有化、業務の効率化を実現したいと考えたため。

### 1. 選択評価事項及び観点について

#### ○ 選択評価事項及び観点についての意見、感想等

- ・ 「教育の国際化」はミッション再定義の内容とも符合し、本学にとって時宜にかなったものであった。観点は適切に設定されていると考えられる。

### 2. 評価の方法及び内容について

#### (1) 自己評価について

#### ○ 自己評価についての意見、感想等

- ・ 自己評価書について、文字数制限（7000 字）以内で作成することが非常に困難であった。（特に選択評価事項Cについて「水準判定のガイドライン」や「自己評価実施要項の【留意点】」の項目については別紙でチェックリストのようなものを提出させることで代用できるように思う）
- ・ トータルで 7000 字以内の字数制限が最後になって厳しかった。本文と資料を分けて準備した後、本文を読めば分かるように、資料の重要データやエッセンス等を本文に記載した為、最終作業では一字削って一字入れての作業となった。難しいかもしれないが、7000 字「以内」ではなく「程度」として

いただければ、準備が楽になると感じた。

## (2) 訪問調査について

### ○ 訪問調査等についての意見、感想等

- ・ 訪問調査時の面談対応者選出については、特に社会人（卒業生・修了生）へ依頼しなくてはならないため、選出基準を早めにご教示いただけるとよいと思いました。
- ・ 選択評価の評価方法について、貴機構の実施大綱では「評価は、原則として評価部会による書面評価により実施」とあり、「書面調査では確認できなかった点については、必要に応じ、ヒアリング等を行う」との記述にも関わらず、選択評価事項Cの訪問調査を認証評価の訪問調査と別に実施するなど、大綱に説明のない方法で評価が実施された。さらに訪問調査当日の質問に対する回答作成は、（認証評価の訪問調査と比べ）ごく限られた時間で作業しなければならないなど、関係者に多大な負担を強いる結果となった。今後は、訪問調査を別日程で実施するのであれば、その旨を実施大綱等に明記することや、意向調査の際に説明するなど、適切な対応を行っていただきたい。
- ・ 一部の確認事項については、自己評価書や別添資料で説明済みであり、記載の見落としと思われるものだった。しかし、公式に示された「確認事項」である以上、それが単なる誤解に基づく質問なのか、あるいはさらに踏み込んで詳細な説明が求められているのか、判断に迷った。大学側としては公式な「確認事項」を単なる誤解と捉え、繰り返し説明のような回答をすることは難しいので、事前に事務担当者間で十分な確認・すり合わせ作業が行われることが望ましい。
- ・ 訪問団は非常に洗練されたメンバーで、一緒に教育の国際化について議論することができた。問題点は問題点として指摘していただき、評価していただけたところはきちんと評価していただけた。それ以外にもさまざまな調査の場面で示唆されることにより、気がつくことが多く受審してよかったと思わせる訪問調査であった。

## (3) 意見の申し立てについて

### ○意見の申し立てについての意見・感想

- ・ 【選択評価事項C】意見の申し立てについて、「書面調査による分析状況」や訪問調査時に大きく取り上げられていなかった事項が評価結果（案）の中で「優れた点」や「改善を要する点」として挙げられていた。評価結果（案）として確定する前に何か非公式な事前確認等の機会を設けていただきたい。

## 4. 説明会・研修会等について

### ○ 説明会・研修会等についての意見、感想等

- ・ 選択事項Cについて、大学の国際化の状況の評価ではなく、教育の国際化の状況の評価であることについて、よりわかりやすく説明いただきたい。（説明会等では、その違いについて分かりづらい点があった。）
- ・ 選択評価C固有の説明がほとんどなかったため、少し残念に感じた。

## 5. 評価結果（評価報告書）について

### ○評価結果（評価報告書）についてのご意見・ご感想等

- ・ 本学に対する評価は非常に適切かつ示唆に富むものであり、まったく問題がなかった。

## 6. 評価を受けたことによる効果・影響について

### （1）自己評価を行ったことによる効果・影響について

#### ○ 自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 本学における「地域貢献活動」や「教育の国際化」に係る取り組み状況を検証することができた。
- ・ 学内で「教育の国際化」について意識が高まり、それぞれの部署で再度見直しをする機会となった。これがさらなる改善に繋がり、第3期中期目標・計画を策定するにあたり、役にたった。

### （2）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

#### ○ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 更なる向上が期待される点を挙げていただけたため、今後はそれを真摯に受け止め、改善・向上を図ることで、本学の教育研究活動等の充実につながる評価となったことに満足している。しかし同時に、本学が選択評価を受審する大きな動機のひとつとして、個性の伸長及び特色の明確化を図りたいということがあったが、実際に評価で「優れた点」とされたものは補助金事業の採択のみであった。さらに踏み込んで本学の個性・特色に鑑み、評価者の視点から独自に優れているとご判断いただける点を見つけていただければ、今後本学が何を重点的に取り組むべきかがより明確になったのであろう。特に選択評価は、受審が義務づけられている認証評価とは異なり、積極的に評価を通じた個性の伸長及び特色の明確化を図るという目的のもと、任意であるにも関わらずあえて受審したものである。そのため、評価にあたっては上記の点をご考慮いただければ、さらに充実した評価となったと思われる。
- ・ 学内外において本学の「教育の国際化」の評価が知られるようになり、現状の分析や理解、次の課題の共有化などさまざまな面でメリットを得ている。機会を捉えて積極的に情報発信を行っている。

## 7. 評価結果の活用について

### ①今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

#### ○主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（評価事項C）

- ・【課題】国際科学技術コースでは、すべての授業と研究を英語で行うことができるとしているが、英語による授業科目の実施について、更なる充実が期待される。

【変更・改善】本コースを充実させるため、平成27年度より、英語による充実した教育ができるよう若手教員を毎年10名程度海外に派遣させる。また、教員および学生から定期的に意見を聴

取し、継続的に現状把握及び検証を行い、課題の改善に努める。【4】

- ・【課題】留学生への定期的な意見聴取による検証と更なる改善への取組が期待される。  
【変更・改善】平成27年度から定期的に留学生の状況把握調査を実施及び検証し、改善に努める。【4】
- ・【課題】教育の国際化の自己点検・評価に係る情報の流れが複雑であるとともに、教育の国際化に関する取組として実施された事業の成果を、大学として把握する取組が行われていない。  
【変更・改善】国際的教育活動の実施に対して、事業評価アンケートを行うなど、事業の成果の把握に取り組む。【3】
- ・【課題】更なる向上のための意見として「外国人留学生の卒業（修了）後の意見招集の工夫」が挙げられた。  
【変更・改善】卒業（修了）時アンケート項目の追加、生涯メールの活用。【5】

## 8. その他

### ○選択評価についてのご意見、ご感想等

- ・ 自己評価書を作成するにあたっては教員と事務方とかなりの負担をかけて準備した。「教育の国際化」については初めての受審であったので、難しい面もあったが、「教育の国際化に向けた取組の実施状況一覧」の表などで、具体的な項目を確認しながら作成することができた。訪問団による審査は非常に的確であったといえる。メンバーが洗練されており、問題について深く理解しているために、様々な面でためになった。また評価結果についても妥当であった。学内外に評価結果を公表することにより、これまでの活動の分析や理解ができ、また問題点がより明らかになったことで、次の活動に非常に参考になっている。これらのことより、本学としては今回受審して非常によかったと結論づけている。

## 選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

### 【評価担当者】（大学）

#### 1. 選択評価事項及び観点について

##### ⑧ 評価しにくい評価事項又は観点について

- ・ 学部と大学院における留学生の受け入れについて、どう考えるべきか、迷うことがある。（国・公・私の役割などから）

##### ⑨ 追加すべき観点について

- ・ 対象校が法人化した公立大学の場合、地域貢献において設置団体の評価を設けてはどうか？  
あるいは、法人評価を加味してはどうか？
- ・ ①帰国後のネットワークの実態や活用の方針・方策について（今後の重要な課題）。  
②ODAは依然としてあるので、「国益」をどう捉えるか？

##### ○ 選択評価事項及び観点についての意見、感想等

- ・ 特色ある部分についての事項であるので、これらの観点、及び方法で良いのではないかと思います。

#### 2. 評価の方法及び内容・結果について

##### （1）自己評価書について

##### ○ 自己評価書の様式についての意見、感想等

- ・ 大体これで良いと思います。

##### （3）訪問調査について

##### ○ 訪問調査についての意見、感想等

- ・ 地域貢献に連携している外部関係者あるいは設置団体関係者との面談があってもよいのかもしれない。（スケジュール調整、時間が課題か？）

#### 3. 研修について

##### ○ 研修についての意見、感想等

- ・ ①はじめて担当する方、②はじめて主査を担当する方、③2年以上連続の方、④主査経験者等で研修に差異化が必要かもしれない。①、②を主体に、③、④は簡易あるいは不要？
- ・ 選択的評価事項についての研修は、あまり必要ないのではないか。

#### 4. 評価の作業量、スケジュール等について

## ○ 評価に費やした作業量、スケジュール等についての意見、ご感想等

- ・ 選択評価「地域貢献活動の状況」は本評価と比較してかなり作業量が少なく済んだように感じた。
- ・ 主査を今回初めて経験したが、業務への理解までに相当の時間と労力が必要であった。主査案作成において更なる工夫が必要ではないかと思う。

主査案作成は過重であり、作業期間も短い。さらに評価結果を訪問先で機構委員と主査でまとめる作業を行ったが時間との戦いであった。主査業務の改善を検討してほしい。
- ・ 細かな文言に注意しながら、言葉を選んで、評価結果を書いていくのは、文章の文字数からは想像できない、時間を要する。

しかし、大変なのは私の時間だけではなく、それをチェックし、補足していく機構のスタッフの時間、緊張、作業量であろう。

何かもう少し簡素化することは出来ないものかと思う。これでは皆疲れてしまう。
- ・ 主査をした大学ではなかったもので、判断しにくいですが、主査にとっては大きな負担であったと思う。

## 5. 選択評価全般について

### ○ 選択評価全般（評価に携わっていただいていた感想も含め）についての意見、感想等

- ・ 機構のスタッフの丁寧な対応、作業などに、強く感銘をうけています。
- ・ 選択評価は、本評価と異なり、他校との比較という観点で評価する事が困難であった（部会で評価対象とした大学の中で選択評価を選択した大学が1校のみであった）ため、どこまで評価の客観性が保証されているのか、個人としては余り自信が持てなかった。また、性格が異なる大学を本務校とする評価者として、性格が類似した大学を本務校とする他の評価者の意見を参考に判断する場面が比較的多かったように思う。
- ・ 本務校運営のために大変勉強になりました。機構委員、職員の皆さんに感謝します。
- ・ 何を評価するかに関して、現時点での成果を評価するのであれば、データもそろい、事実に基づいて判断できるので、比較的簡単であろう。標準化された手順に沿って、基準値と比較して判断すれば良い。

しかし、成果が将来現れるような、現時点での計画や努力を評価するとなるとなかなか難しい。しかし、評価される方にとってはこちらの方が重要なはずである。

過ぎたことをあれこれ言われても、所詮は過去の話である。現在やっていること、これからやろうとしていることに対して、参考となるような意見をもらうことの方が、まだ将来の計画や努力の変更の余地があるので、ありがたいはずである。

将来どうなるかは誰にもわからないが、今のままではこういう問題が起こりそうだ、ぐらいのことは言えるだろう。ただそれを言うためにも、評価者に専門性と人間性の力量が要る。

機構としては、良い評価者のプールを作ることを心がけ、場合に応じて使い分けるようなことが出来れば良いのではないかと思う。その時その時に、手近な知り合いにちょっと頼むというのでは、

事務局が疲れてします。

- 選択評価についてのアンケートももう少し簡単にして欲しい。
- 対象校が特に求めてきた項目ですから、その期待に応えられるようにすることが大事かと思えます。この結果が、そうなっていれば（対象校からの判断が）よいと思えます。



### 平成26年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート

**選択評価を受けた対象校のみお答えください。**

① 今回、受けた選択評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択評価事項 A 「研究活動の状況」	
・ 選択評価事項 B 「地域貢献活動の状況」	
・ 選択評価事項 C 「教育の国際化の状況」	

② 選択評価を受けた理由をご記入ください

--

あった	なかった	
2	1	

③ 現在の選択評価事項 A、B、C の他に、設けることが望ましい選択評価事項があった.....

→※③について、2 とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択評価事項についてご記入ください。

--

## 1. 選択評価事項及び観点について

当機構が設定した選択評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である各大学の「個性の伸長及び特色の明確化」、教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 選択評価を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった-----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 貴校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立  
 てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会  
 から理解と支持を得るために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑦ 自己評価しにくい選択評価事項又は観点があつた -----

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、どの選択評価事項又は観点が自己評価しにくかつたかをご記入く  
 ださい。

ある	ない
----	----

A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

⑧ 現行のものに加え、追加すべき観点があった -----

→※⑧について、2 とご回答いただいた場合、追加すべき選択評価事項及び観点についてご記入ください。

・選択評価事項及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### (1) 自己評価について

	迷った	迷っていない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

- ① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※①について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

--

- ・自己評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

・訪問調査等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3)意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった .....

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・意見の申立てについてご意見、ご感想等をご記入ください。

### 3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業量、スケジュール等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 選択評価に費やした作業量、スケジュール等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--



#### 4. 説明会・研修会等について

選択評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、説明会・研修会等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価報告書の内容は、貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった-----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた-----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑧ 評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点がわかりにくかったかをご記入ください。

⑨ 評価結果において、目的の達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑩ **選択評価事項Cを受けた対象校のみお答えください**

評価結果において、「国際的な教育環境の構築」、「外国人学生の受入」、「国内学生の海外派遣」の各項目について、一般的な水準から4段階で判断を示すという方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑪ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

### (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立った -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 貴校の教育研究活動等の改善に役立った -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・選択評価について自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つ -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 貴校の教育研究活動等の改善に役立つ -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 貴校の学生や社会からの理解と支持が得られる -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・機構の選択評価結果による効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

## 7. 評価結果の活用について

① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

**注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。**

非常に参考になった ← 参考に → あまり参考に  
 参考になった ← なった → ならなかった  
 (5) (3) (1)

課題	(記入例) 【評価事項 A】研究活動を実施するために必要な体制の整備を加速させる必要がある。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	各キャンパスの研究活動の現状を調査・検証し、体制の基盤づくりをしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1	貴校の広報誌に評価結果を掲載する。	2	貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3	資金獲得のための申請書に記載する。	4	学生募集の際に用いる。
5	共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。		
6	その他（具体的に） <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>		

回答欄	
-----	--

## 8. その他

- ・ 選択評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

### 平成26年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート

**選択評価を担当された方のみお答えください。**

① 今回、評価を担当された選択評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択評価事項 A 「研究活動の状況」	
・ 選択評価事項 B 「地域貢献活動の状況」	
・ 選択評価事項 C 「教育の国際化の状況」	

あった	なかった	
2	1	

② 現在の選択評価事項 A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった -----

→※②について、2とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択評価事項についてご記入ください。

--



# 1. 選択評価事項及び観点について

当機構が設定した選択評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である各大学の「個性の伸長及び特色の明確化」、教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 選択評価を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった ----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ **選択評価事項Cの評価担当者のみお答えください**  
 「国際的な教育環境の構築」、「外国人学生の受入」、「国内学生の海外派遣」の各項目について、一般的な水準から判断を示すという方法は適切であった-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立っているために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑦ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑧ 評価しにくい選択評価事項又は観点があった -----

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

→※⑧について、2とご回答いただいた場合、どの選択評価事項又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

⑨ 現行のものに加え、追加すべき観点があった -----

→※⑨について、2 とご回答いただいた場合、追加すべき選択評価事項及び観点についてご記入ください。

・ 選択評価事項及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（１）自己評価書、（２）書面調査、（３）訪問調査、（４）評価結果の４項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （１）自己評価書について

強く      どちらとも      全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)      (3)      (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想等をご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点等があればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く    どちらとも    全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)        (3)        (1)

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

・ 書面調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 訪問調査について

強く    どちらとも    全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5)        (3)        (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・ 訪問調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。



(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想等をご記入ください。

### 3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、研修は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 研修についてご意見、ご感想等をご記入ください。

#### 4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業量、スケジュール等について以下の質問にお答えください。

強く    どちらとも    全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5)                    (3)                    (1)

① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 選択評価に費やした作業量、スケジュール等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 5. 評価全般について

選択評価を行ったことによる効果・影響等、評価全般について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ① 今回の評価によって対象校の個性の伸長と特色の明確化に役立つと思う ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善に役立つと思う -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・選択評価全般（選択評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。